まいづるのふくし

災害ボランティア特集号

発行／社会福祉法人舞鶴市社会福祉協議会　発行日／平成17年3月30日
住所／〒625-0087　舞鶴市字余部下1167　舞鶴市中総合会館 3階
TEL.62-7044・65-0058　FAX.62-7039

マンパワーの威力！

まいづる災害ボランティアセンターを立ち上げる

舞鶴市社会福祉協議会

台風二十三号による甚大な被害が発生した翌日、全国から大量に来られるであろうボランティアの受け入れ体制、被災地のニーズ把握をどのように行うべきかを舞鶴青年会議所や舞鶴市と検討し始めました。その際、NPO法人「ふくい災害ボランティアネット」の方から、災害ボランティアセンター運営のノウハウについて様々なアドバイスをいただくとともに、資材提供の申し出を受けました。

十月二十二日、舞鶴青年会議所と共同で「まいづる災害ボランティアセンター」を喜多の舞鶴21ビルに設置することが決定し、その旨を新聞・ラジオ等のメディアを通して流すとともに、加佐地区の区長さんに「センター」からのチラシの配布をお願いするなどの広報活動を行いました。

十月二十三日に事務所や活動拠点等を設置し、ボランティアの申し出、問い合わせ、ボランティア派遣の要請等の受付を開始しました。

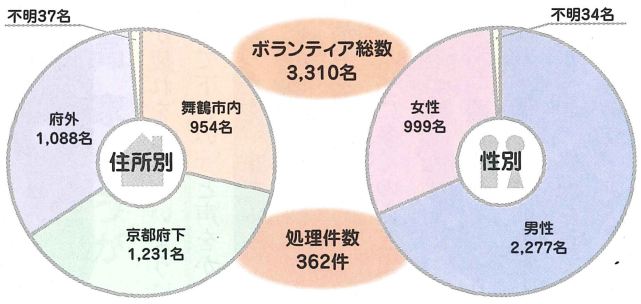
十月二十四日から実際にボランティアの受け入れ・派遣を開始し、加佐地区全体と西地区の一部において、床上・床下の泥かき、畳・家具等の運び出し、敷地内のゴミ、竹木や土砂の撤去、生活水路や道路更には一部農地の土砂等の撤去など、様々な活動を行いました。

被災地の皆様の要望に十分応えられたのかどうかは分かりませんが、十一月三日をもって「災害ボランティアセンター」としての活動を終了し、その後は社協事務局で対応してまいりました（十一月二十八日まで）。

参加されたボランティアの傾向としては、舞鶴市内からの参加者が思ったよりも少なく、全体の1／3以下でした。やはり、加佐地区や西地区の一部と比べると、東地区・中地区の被害が軽度であった為、舞鶴市民全体としては、被災状況の深刻さに対する意識が低かったのではないかと思います。

最後に、ご協力をいただいた多くのボランティアの皆様の好意に改めて感謝いたしますと共に、被災された皆様が一日も早く、元の快適な生活に戻っていただける事を心からお祈りします。

たくさんのボランティアの方にお世話になりました



災害ボランティアセンターに携わって

(社)舞鶴青年会議所

今回の台風二十三号被害に際し、全国から多数駆け付けて頂けるボランティアの方々と被災地とのコーディネート役として青年会議所もボランティアセンターの運営に携わらせていただきました。

青年会議所としては主に現地のニーズに対する人数調整とそれに伴う移送部門を担当させて頂きましたが、舞鶴の場合はどちらかと言えば市街地よりも由良川以西の山間部での被害が大きく、その現地へのボランティアの方々の移送手段が一番の問題でした。

広域水災という事もあり車両ニーズが急増する中、ボランティア用移送車両の確保が非常に難しく、中でも小回りの利くワゴン車の台数が思う様に調達出来ずに少ない台数でやりくりをさせて頂きましたが、センターから現地へのピストン輸送に関しても、往復するだけでもかなりの時間を要し、結果その間に朝早くから集まって頂いたボランティアの方々を長時間お待たせする事となり、非常にもどかしさを感じました。

又、青年会議所メンバーもボランティアとしての参加である為、自社の復旧作業や日常業務などの関係から連日同じ人間がセンターに詰め続けるという訳にもいかず、段取りの引継ぎや配車、運搬、運転手等の人員調整も困難を極め、日々刻々と変化する状況の中での運営側としての難しさも痛感致しました。

私たち青年会議所は「明るい豊かな社会の創造」を使命として日々活動をしておりますが、今回の災害から学んだ様々な事を教訓とし、今後のまちづくり運動にも活かして行きたいと考えております。

最後になりましたが、連日早朝より深夜までセンター運営に邁進されました社会福祉協議会の皆様を始め、ご協力頂きましたボランティアの皆様方に、この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

ボランティアの皆様へ

志高区長　永野治雄

台風二十三号という思いもよらない大きな災害に直面し志高住民は変わり果てた我が家にただ呆然とし、又深い悲しみを負いながらも大変な作業の毎日でした。

大きな災害は普段活動して頂いております消防団や区の役員の家をも直撃し、本当に動ける人が少なくすべてにおいて大変でしたが、みんな復旧に向けて頑張っておりました。

そんな中でボランティアの皆さんの存在は、大きな戦力であり心身共に疲れておりました住民に心強く希望を与えて下さいました。ボランティアの皆さんの誠意ある活動は、被災住民の一人一人に又復旧に向けて頑張っている多くの人の、励ましになりました。狭い床下に入っての泥だし作業もどんな汚れた片付けも、スコップでの重労働も本当にボランティアの皆さんの力なしではあの災害直後の早い復旧は無かったと思います。

急な人数要請にいつも快く引き受けて下さいました事、本当に有り難い事だと感謝しております。遠方より朝早く来て頂いた方々、わざわざ休みを取って来ていただいた方々、日星高校・高専の皆さん、まち遊びフェスティバルのスタッフの皆さん、そして一人一人のお名前は分かりませんが、多くの皆さんのやさしさでこの志高の多くの方が助けて頂きました事を心より感謝しております。

帰り際に「先は長いと思いますが疲れを出さないように頑張って下さい」と声をかけて下さった方、来てみてこんなひどい事を初めて知りましたと痛みを汲み取って下さった方…本当に多くの人と出会い励まされました。

今、あの頃に比べるときれいになり、個々の復旧も進みましたが今尚、修理されておられる家もあり、すべてが元に戻るのには今少し時間がかかる事と思います。ボランティアの皆さん本当にお世話になりました。皆さんのおかげでここまで復旧出来ました事、皆さんのやさしさ忘れる事はありません。

昨年のこの災害を過ぎた事とせず、これからの教訓にしよりよい方向に進んで行きたいと思います。

有難うございました。

感謝の想い

山下太一

昨年の台風二十三号で私達の静かな郷土、下見谷は、有史以来の甚大な被害を被ることになりました。当区の河川の護岸、耕地の田畑は上流から下流まで壊滅状態になり、又、山から谷から土石流は、容赦なく住家に流れ込み、二名の犠牲者をだすなど多くの惨状を呈したのであります。私達はただ呆然とするばかりでありましたが、舞鶴市当局は直ちに加佐に災害復旧対策本部を設置されると共に舞鶴市社会福祉協議会の適切且つ迅速な、「ボランティア活動」が、遠くは滋賀県を始めとする京都市内、大阪の各方面からのご援助を賜り、多数の皆様の土砂の取除き、ドロまみれになりながらの、ご奉仕をお願いし、お世話になりました。年老いた私共は、この心温かな皆様に誠に有難く、深甚の敬意を表しますと共に、厚くお礼を申し上げます。

又、私は当地区の要望により、岡田中地区が被害甚大であり災害記録写真集を、後世に伝えるべく発刊いたしましたところ、各方面より反響が大変大きく、その要望に応えるよう頑張っております。

後になりましたが、舞鶴市社会福祉協議会の益々のご活躍とご発展をご祈念申し上げまして、お礼の言葉とさせていただきます。有難うございました。

ネットワークを大切に

まち遊びフェスティバル
実行委員会
常塚直人

私は昨年の秋に起こった台風二十三号の被害により舞鶴で発足した災害ボランティアセンターに参加し様々な体験と経験をしました。

昨年の台風二十三号により、由良川流域などをはじめ舞鶴市全域が大変な被害に見舞われました。このような災害が起きた時は、衛生管理、食料の配給、被災状況の確認、ガレキの撤去等々、あらゆる復旧作業が始まります。この状況を受け急遽、被災者からのニーズに応え、最低限の生活環境の確保を目的として『まいづる災害ボランティアセンター』が設立され、全国各地からの災害救助ボランティアや災害救援物資を確実に被災者の所まで送り届けるのが今回の私たちの役割でした。

実際に被災されている方の所へ行く機会も多くありました。被災状況を目の当たりにして思った事は、「これが現実か?」ということでした。もとの状態に戻るまで何年かかるか、と思わせるほど状況はひどいものでした。しかし被災者の方々は落胆しながらも元気で力強く、復旧の為に手伝いに行った我々が励まされる機会も多くありました。

今回の災害により、一人一人が備える心構えを持つ大切さと、不測の事態に備えるあらゆる団体、個々人、地域のネットワークの大切さを感じました。

感謝の言葉をありがとう

日星高等学校教頭
四方由紀子

十月二十日、台風二十三号は舞鶴に未曾有の風水害をもたらしました。

本校生徒の中にも、身一つで逃げ出した生徒や床上浸水、土砂崩れの家庭もありましたが、二日間の休校だけで学校生活は続けられました。

災害ボランティアセンターから「高校生のボランティアを」との要請を受け、土、日のボランティアを募りました。しかし、平日こそが不足しているという声と災害の状況を考えて、生徒会と相談の結果、三年生一学年が二十九日(金)に急遽参加することを決定しました。生徒達は、受験目前の生徒や風邪気味の生徒もいましたが、快く承諾してくれ、スクールバス二台に分乗し、「下漆原」と「志高」に出かけました。その後、三十日、三十一日には有志の生徒と教職員が参加し、計約百八十名のボランティア活動となりました。

泥まみれの力仕事に少々戸惑いながらも、「ありがとう」と感謝の言葉を言って頂いた時の嬉しさに感激し、一人ひとりがわずかではあっても、お役に立てたことに喜び、困難な時にこそ人と人は助け合う必要があることを改めて学んだようです。

被災された方々が一日も早く心身共にお元気になられる事をお祈りし、災害への備えにこそ、人間の「知恵」を使っていきたいと思います。

ボランティアに参加して

倉梯小学校
二年生
高家こうが

日よう日、ぼくは家ぞくでまいづる市地頭に行きました。台風のせいでお家がどろだらけになっているところに、お手つだいに行きました。ぼくが行ったとこは全体がどろまみれでした。そしてお手つだいにとりかかりました。

ぼくは、どろまみれでがんばりました。ちょっと休けいしました。おかしを食べました。休けいがおわって、お家の中のどろをふくろに入れて、そのどろの入ったふくろをトラックにつんではこびました。どろまみれでスコップをつかってどろをふくろに入れました。みんな知らない人たちがきょう力してがんばりました。時間が少ししかなかったのでちょっとしかできませんでした。また、こんなことがあったら行ってあげたいです。

遠方から来られた方の温かい心

災害ボランティア活動に関する寄附者等

物品等寄附者

- ふくい災害ボランティアネット
- 福井市社会福祉協議会
- 綾部市　河崎 貴司
- 日本共産党舞鶴地区委員会
- 京都銀行㈱
- 四十物 きよみ
- みずなぎ学園
- 京都生活協同組合 組織運営部
- 京都生活協同組合 両丹ブロック事務局
- UCC上島珈琲㈱
- 京都市　飯田 俊也
- 京都市社会福祉協議会
- 亀岡市　苗村 活代
- みずなぎ高野学園
- 天竜市社会福祉協議会
- NPFA　浅谷 幸作
- 京都産業㈱
- 小林 健作
- 小西 とも子
- 日東薬品工業㈱綾部工場
- ㈱伊藤園
- 京都市　大江 時雄
- 亀岡青年会議所
- 舞鶴みなと ライオンズクラブ
- 京都府社会福祉協議会
- 京都府職員有志
- 近畿コカ・コーラボトリング㈱

活動資金寄附者

- 辻 逸司（前京都府舞鶴地方振興局長）
- 舞鶴市連合婦人会
- 伊庭 幡彦
- 民謡ボランティア竹の子会
- 舞鶴市東民生児童委員会
- 松山 勝司

活動場所等の提供

- ㈱舞鶴21
- 舞鶴港振興会
- 舞鶴市土地開発公社
- 財団法人近畿移動無線センター

（順不同、敬称略）

災害ボランティア協力団体一覧表

- 大阪府社会福祉協議会
- 大阪市社会福祉協議会
- 福井県社会福祉協議会
- 福井市社会福祉協議会
- 小浜市社会福祉協議会
- 高浜町社会福祉協議会
- 大飯町社会福祉協議会
- 名田庄村社会福祉協議会
- 敦賀市社会福祉協議会
- 美浜町社会福祉協議会
- 京都府社会福祉協議会
- 京都市社会福祉協議会
- 宇治市社会福祉協議会
- 亀岡市社会福祉協議会
- 八木町社会福祉協議会
- 加茂町社会福祉協議会
- 笠置町社会福祉協議会
- 瑞穂町社会福祉協議会
- 和束町社会福祉協議会
- 南山城村社会福祉協議会
- 新旭町社会福祉協議会
- 富田林市社会福祉協議会
- 京都ボランティア協会
- 京都青少年ゆめネットワーク
- ユース21京都
- ふくい災害ボランティアネット

（順不同、敬称略）

まいづる農業災害ボランティアを募集しています!!

災害から既に5ヶ月余りが経過していますが、未だに田畑や農業用水路には流れ込んだ土砂等が堆積し、耕作の出来ない状態の田畑が多くあります。まいづる農業災害ボランティアセンターでは、そのような農地の復旧を手伝っていただけるボランティアと派遣希望農家を募集しています。

- 活動内容／人力で行える田畑の土砂、ごみの片づけ、用排水路の泥上げなど
- 活動予定／土曜日または日曜日

参加申し込み 問い合わせ先　まいづる農業災害ボランティアセンター事務局（舞鶴市農林課内）　電話 66−1023

R100 PRINTED WITH SOY INK